

学長ご挨拶

「やる気に応えます、金沢大学女性研究者支援」事業は、2008年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」において採択されました。本事業は今後3年間にわたり男女共同参画キャリアデザインラボラトリーを中心に、女性研究者支援策を積極的に展開し、女性研究者、女性リーダーを増やすとともに、女性が生き生きと活躍できる男女共同参画を実現する支援モデルの開発を行うものであります。

日本における女性研究者割合は、平成19年度時点で12.4%にすぎません。諸外国と比較しますと、アメリカは34.3%、フランス27.8%、イギリス26.0%となっており、日本の女性研究者の割合は際立って少ないということが分かるかと思えます。

とりわけ、工学分野の研究者に占める女性の割合は6.8%、また、医学、農学などでも10%台にとどまり、理工系の女性研究者の数は少ないというのが現状です。このような状況を変えるために、国立大学協会は女性教員比率を2010年までに20%にするという数値目標を掲げました。

これを受けまして、本学ではいち早く平成13年度に男女共同参画推進委員会を設置し、フォーラムや講演会の実施、ジェンダー関連科目の講義の増加、授乳室の設置などに取り組んでまいりました。平成17年度には、全教職員を対象にアンケート調査を実施し、提言書をホームページ等に公表しました。今年度は、附属属病院の中に病児保育施設を設置しております。本事業の採択を契機に、本学が早くから取り組んできたこれらの歩みをさらに進め、より一層女性が力を発揮できるよう、全学を挙げて本事業に取り組む所存です。

女性にとって働きやすい職場は、男性にとっても働きやすい環境であることは明らかです。近い将来、さまざまな研究分野で女性研究者が活躍し、本学の研究のレベルを高め、ひいては日本全体の学問の発展に貢献できることを期待しております。本事業が大学教職員の意識改革を推進し、また、地域との協力関係を強化し、さらには、国の男女共同参画に関する政策をリードする機会になれば幸いと存じます。

金沢大学長

中村 信一